

## 事業（会務）報告

## 1. 会員の状況

2020年3月1日現在の社員（会員）総数は、9,869名で会員の種別・増減内訳は下記のとおりである。注：（ ）内は、2019年3月1日現在の会員数を表す。

会員総数	9,869名	(9,935名)	-66名
種別内訳：			
一般会員	8,347名	(8,458名)	-111名
評議員	997名	(1,000名)	-3名
名誉会員	65名	(60名)	[国内38名(33名) 国外27名(27名)]
功労会員	181名	(169名)	+12名
購読会員	279名	(248名)	+31名

## 年間会員増減：

(2019年3月1日～2020年2月29日)

⊕ 新入会	370名	(353名)	+17名
⊕ 再入会	1名	(9名)	-8名
△ 退会者	429名	(400名)	+29名

(定款第9条第1号希望退会者 261名, 同条第2号による退会者 168名)

## 2. 2019年度事業報告

## 1) 総会・学術集会

第63回日本リウマチ学会総会・学術集会

2019年4月15日 ～ 4月17日 京都市左京区 会長 山中 寿

## 2) 支部学術集会

第29回北海道・東北支部集会	11月	2,3日	青森市	会長	浦田 幸朋
第30回関東支部集会	12月	7日	千代田区	会長	大島 久二
第31回中部支部集会	9月	27,28日	新潟市	会長	石川 肇
第29回近畿支部集会	9月	7日	大阪市	会長	川人 豊
第30回中国・四国支部集会	12月	6,7日	岡山市	会長	山村 昌弘
第57回九州・沖縄支部集会	3月	9,10日	福岡市	会長	末松 栄一
第58回九州・沖縄支部集会	9月	7,8日	長崎市	会長	川上 純

### 3) 理事会

2019年度定例理事会を5回開催した。主要審議事項は次のとおり。

(定時理事会は土曜日または日曜日に開催)

#### 第1回理事会(4月14日日曜)

定例評議員会, 総会承認事項の審議(事業報告, 決算・監査報告, 予算審議, 名誉会員・功労会員・評議員の選任, 第66回学会長選出), 第9期役員の選任, 新専門医制度, 各委員会委員長および構成メンバー, 新規承認薬の市販後調査依頼について等

#### 第2回理事会(6月29日土曜)

第63回学術集会収支報告, 第64回学術集会準備状況, 委員会サブコミッティ設置, J-OSLERの導入, ガイドラインの策定と改訂, ガイドライン作成時のCOI申告, 小児非感染性ぶどう膜炎初期診療の手引き, 各支部学術集会予算, 未承認薬/適応外使用薬検討会議への要望, APLAR2020について等

#### 第3回理事会(9月1日日曜)

2019年度教育施設認定, 第63回学術集会の収支・結果報告, 第64回学術集会準備状況, ガイドラインの名称, 成人リウマチ医のための移行支援ガイド, 各支部学術集会予算, 学会賞・奨励賞選考委員の委嘱, 遺伝学用語の改訂, J-OSLER開発費用について等

#### 第4回理事会(11月16日土曜)

第64回学術集会準備状況, Editor's choice論文のオープンアクセス, 若手リウマチ医トレーニングプログラム選考結果, 若年性特発性関節炎に対する生物学的製剤の手引き改訂版, 診療ガイドライン策定にかかる企業との関係透明化, COI共通指針, 登録ソノグラファーの新規登録および更新の審査結果, 各支部学術集会予算, J-OSLERの開発スケジュール, 研究発表にあたっての共通倫理ガイドラインについて等

#### 第5回理事会(2月1日土曜)

2020年度定例評議員会・総会の日程, 2019年度決算および2020年度予算, 指導医・専門医の認定, 新専門医制度における認定教育施設の承認, 第64回学術集会開催準備状況, 第67回学術集会(2023年度)学会長推薦, 名誉会員・功労会員・新評議員の推薦, 関連学会の申請, PMS対象薬剤のガイドライン改訂, 関節超音波講習会の開催指針, 疾患別移行支援ガイド, 「MTXを服用する患者さんへ」の改訂, リウマチ病学テキストの改訂, RA-LPDワーキンググループの経過報告, 厚生労働省のリウマチ対策事業等について

### 4) 学会誌

- (1) 学会誌 Modern Rheumatology (MR)を年6回定期刊行, およびオンライン版 MR Supplement(学術集会英文抄録集)を年1回刊行した。
- (2) 編集委員10名を含む Transmitting Editor 合計32名にて電子投稿査読システム Editorial Managerを活用し, 投稿論文の公正かつ速やかな査読行程に努め, 掲載論文の質の向上に努めた。

- (3) 2018年のImpact Factor (IF) は1.973, 5年IFは1.884であった。
- (4) Modern Rheumatology Case Reports(MRCR)は2019年7月に3-2号, 2020年1月に4-1号を発行, それぞれ18編, 31編の論文を掲載し, 創刊からこれまでに145編の論文を出版している。
- (5) MEDLINE 収載申請のため, 投稿規定を世界基準に見直し, ICMJE Recommendations に準拠している旨やEthical Approvalに関する項目を追加するなどの改訂を行った他, International Advisory Boardを選出し, メンバーとして加えた。なお9月にMEDLINE 登録審査を出版社経由で申請している。
- (6) 4月にAPLAR(ブリスベン), 6月にEULAR(マドリード), 11月にはACR(アトランタ)にJCRのブースを設営し, ジャーナルのプロモーション活動を行った

#### 5) 専門医制度

- (1) 2019年4月からの開始を予定していた基本領域との連動研修が見送られ, 厚生労働省によるサブスペシャリティ領域の在り方が検討されている中, 連動研修が認められるよう内科学会および内科系サブスペシャリティ15学会と連携し, リウマチ専門医の医師像や必要性, また必要専門医数などのデータを取りまとめ日本専門医機構へ提出した。また連動研修が承認された後, 速やかに研修記録を登録できるよう, J-OSLERの導入を決定して開発に着手した。
- (2) 2019年度認定の教育施設として, 新規20施設, 更新211施設を認定した。この結果, 2019年9月1日時点での日本リウマチ学会認定教育施設は596施設(前年比+1)となった。
- (3) 第32回専門医資格認定試験を2019年1月17日(日)にベルサール神田(東京)で実施した。受験者は280名(前年312名)で, 合格者は234名(同259名), 合格率は83.01%(同83.57%)であった。
- (4) 2020年3月1日付けで専門医・指導医の資格更新の認定を行った。リウマチ専門医は4,888名(前年比+2名), 指導医は1,750名(同+123名)である。特に指導医は2016年度の規則改定以降着実に増加している。
- (5) 専門医研修カリキュラムの改訂に向け, 評議員を対象にパブリックコメントを募集し委員会で検討を進めた。
- (6) 新専門医制度による認定教育施設は8施設が新たに認定され, 計288施設となった。

#### 6) 国際化の推進と若手の育成

- (1) 国際シンポジウムは「シンポジウム国際委員会企画」として3セッションを企画し, 計15の講演が行われた。
- (2) 国際コンカレントワークショップは, より多くの聴衆に興味をもってもらうために年齢制限は設けないようにし, またBasic/Clinical関係なく内容別にセッションを振分け, 1枠60分前後とし22枠設けた。
- (3) 63回学術集会において「JCR 2019 Travel Award」を募集した。Awardには8カ国33名から36演題の応募があり, 8カ国から24演題(24名)を選出した。また, 若手会員(45歳未満)を対象とした「国際ワークショップ優秀演題賞」は, 審

査対象 108 演題を JCR 国際委員会および国際委員会サブコミッティによる査読の結果、31 演題(31 名)を選出した。

- (4) 「JCR-EULAR 若手リウマチ医トレーニングプログラム 2019」を企画し、長期プログラム希望者 3 名、短期プログラム希望者 1 名の中から、長期 1 名、短期 1 名を選出した。長期トレーニングプログラム選出者には助成金として 300 万円、短期選出者には 1 ヶ月 40 万円(最大 3 か月)が支弁される。
- (5) 国際的に活躍できる若手リウマチ学研究者の育成を目的とした「JCR 国際育成セミナー 2019 (JCR International School 2019)」を 7 月 25~27 日、軽井沢プリンスホテルウエストにおいて開催した。
- (6) APLAR 2019 (ブリスベン) に演題投稿した 45 歳未満の JCR 会員を対象にしたトラベルグラントを実施し、11 名にトラベルグラントとして一人 10 万円を支弁した。
- (7) 海外関連学会との連携、JCR の広報を目的として APLAR (ブリスベン)、EULAR (マドリッド)、ACR (アトランタ) において JCR のプロモーションブースを出展した。

#### 7) 教育研修会等の開催

- (1) 全国規模の教育研修会として、4 月 14 日にアニュアルコースレクチャー(京都国際会館)、8 月 25 日に全国中央教育研修会東京大会、12 月 8 日に同大阪大会を開催した。
- (2) 第 6 回ベーシックリサーチカンファレンスを 10 月 25 日(金)、26 日(土)にアキバホールにおいて開催した。今回のカンファレンスには 180 名が参加し、特別講演や教育講演、また次世代リーダーセッションのほかポスターセッションなどが行われた。特別講演には坂野仁先生と森和俊先生という日本が誇るトップサイエンティストの先生をお招きし、教育講演では、基礎研究推進委員会や外部のエキスパートによる講演を行った。ポスターセッションには、昨年を上回る 65 題の演題が集まり、事前審査により優秀な 3 演題を優秀演題賞として選出し、優秀演題セッションでの口頭発表を行った。また、ポスターを前にして活発な討論が行われ、7 演題をポスター賞として選出した。優秀演題賞に選出された 3 演題とポスター賞に選出された 7 演題は、ポスターセッションの最後で表彰を行った。
- (3) 各支部主催による「関節超音波初心者向け講習会」を実施した。開催にあたっては関節リウマチ超音波標準化小委員会で策定した「関節超音波検査初心者向け講習会開催指針」に基づき実施され、関節超音波の普及を推進した。なお 10 月 12~14 日に開催を予定していた「関節超音波検査講習会アドバンスコース」は台風の影響により開催中止となった。
- (4) 登録ソノグラファーは、本年度、関節超音波検査に関する十分な学識と経験を有する医師及び医療従事者 65 名を新たに登録し、63 名の登録更新を行った。
- (5) 学会員の臨床研究に関するリテラシー向上、臨床研究を担う人材育成を目的に 9 月 14~16 日の 3 日間に渡り第 1 回臨床研究トレーニング合宿を開催した。
- (6) 学会員が蓄積した膨大なデータをリウマチ性疾患の診断・治療・アウトカム予測

にどう利活用すべきか、また今後の研究や臨床の発展にどのように応用すべきかの検討を進め、「2018年度 GSK 医学教育事業助成」による「AI 技術が切り拓く新たなリウマチ学に向けた教育シンポジウム」を東京、大阪、福岡で開催した。

#### 8) その他

- (1) JCR で作成した各ガイドラインの名称を検討し、ガイドラインという名称は Minds もしくは Grade system に基づいて作成されたものに限ることを決め、他は「使用の手引き」あるいは「ガイド」等の名称に変更することにした。
- (2) 学術集会の演題投稿時に倫理委員会の承認や IC の取得有無を申告させるシステムを導入した。
- (3) 日本語 Web サイトに続き英語版 Web サイトもリニューアルし、海外向け情報発信機能を高めた。
- (4) 10月に発生した台風 19 号による甚大な被害を鑑み、被災された会員の指導医・専門医の更新にあたっての特例措置を実施した。
- (5) 2019年 12 月から中国武漢市を中心に広がった新型コロナウイルス (COVID-19) の流行を受け、学会に「新型コロナウイルス感染対策本部」を設置し、医師向け、患者向けの情報を学会ウェブサイトに掲載し更新を重ねた。

### 3. 2020 年度事業案

#### 1) 総会・学術集会

- (1) 石黒直樹会長のもと、2020年 4 月 23 日(木)～25 日(土)に第 64 回日本リウマチ学会総会・学術集会の開催を予定していたが、COVID-19 の影響により WEB 開催で実施する。
- (2) 第 65 回日本リウマチ学会総会・学術集会 (2021年 4 月 26 日～28 日、神戸ポートピアホテルおよび神戸国際会議場)の準備を、竹内勤会長のもとで進める。

#### 2) JCR 学会誌

- (1) MR 論文の質の向上と引用の増加を図り、更なる国際的展開を進める。
- (2) 質の高い出版を維持し年 6 号発行する。
- (3) 英文抄録集は学術集会の演題登録時に英文抄録を義務付け、MR Supplement として年 1 号をオンライン PDF として発行する。
- (4) 国際学会にて MR および MR CR のプロモーション活動を精力的に行い、欧米からの投稿数増加を促す。
- (5) MR CR は PubMed/MEDLINE への収載を目指し、インパクトファクターの早期取得に向けてジャーナル内容を充実させる。

#### 3) 専門医制度

- (1) 専門医制度委員会が恒常的に行ってきた指導医の新規認定・資格更新業務、教育研修会の認定業務を引き続き実施する。
- (2) 新専門医制度による研修開始に向け、機構が示す「専門医制度整備基準」に則った研修カリキュラムを整備し、J-OSLER を早期に稼働できるよう準備を進めていく。また日本内科学会、日本整形外科学会および日本小児科学会の基本領域、さ

らには内科系 subspecialty 15 学会と情報の共有と連携を推進していく。

- (3) 2020 年度専門医資格認定試験を 2021 年 1 月 17 日(日)にベルサール神田(千代田区神田美土代町)で実施する。

#### 4) 国際化の推進と若手の育成

- (1) 一層の国際化推進のため、学術集会での英語セッション枠を増やしていく。
- (2) 海外の 45 歳未満を対象とした JCR Travel Award (アジア諸国一人 1,000 US ドル, アジア諸国以外一人 1,800 US ドル) を継続して実施する。また、同じく 45 歳未満の会員を対象とした国際ワークショップ優秀演題賞 (ICW Excellent Abstract Award) も継続して実施する。(2020 年度は中止)
- (3) JCR International Advisory Board Meeting を第 64 回学会・学術集会期間中に開催する。(2020 年度は中止)
- (4) 2020 年度 JCR-EULAR 若手リウマチ医トレーニングプログラムの募集を行う。
- (5) 国際的に活躍できる若手リウマチ学研究者を育成するための国際育成セミナーを開催する。(2020 年度は開催中止)
- (6) APLAR 2020 京都大会に協力するとともに、に演題投稿した JCR 会員を対象にトラベルグラントとして 5 万円を支弁する。
- (7) 学会広報活動として、APLAR, EULAR 及び ACR に JCR のブースを展示する。(2020 年度は中止)

#### 5) その他

- (1) AI 教育の推進を目指し、2 年目となる「AI 技術が切り拓く新たなリウマチ学に向けた教育シンポジウム」を開催する。
- (2) 臨床研究に関するリテラシー向上、臨床研究を担う人材育成を目指し、学術集会と各支部集会において臨床研究に関する基礎的なレクチャーを引き続き行い、また第 2 回臨床研究トレーニング合宿を実施する。(2020 年度は開催中止)
- (3) 厚生労働省のリウマチ対策事業として、リウマチ相談員育成事業を進めていく。
- (4) 我が国のリウマチ性疾患の診療に即したレジストリを構築し、いち早く会員の皆様に情報発信をすることを目的に「リウマチ性疾患患者に生じた COVID-19 に関する研究」を開始する。